

ご意見・ご要望に対するJAの考え方



昨年末に開催されました集落座談会と支店運営協議会。参加頂いた皆さまからは、JAグループ秋田組ている県1 JA基本構想などについて貴重なご頂いたご意見・ご要望について当組合の考えを介致します。尚、重複する内容等については集約させていただきます。

※各項に標記している㊦、㊧、㊨、㊩はご意見、ご要望のあった支店管内 ㊪=のしろ東支店管内 ㊫=のしろ北支店管内 ㊬=ニッ

営協議会。組織再編協議会で盛んに協議され意見・ご要望を頂きました。方を取りまとめましたのでご紹介

ただしましたので、あらかじめ

た各集落の管轄支店を表しています。井支店管内 ㊭=藤里支店管内



座談会資料は左記QRコードからダウンロード頂くか、お問い合せ下さい。

座談会資料は左記QRコードからダウンロード頂くか、お問い合せ下さい。

Contents

- 02 | Contents・今月の表紙
- 03 | 特集① 令和3年度集落座談会・支店運営協議会 Q&A
- 10 | あきた白神トピックス
- 11 | 能代科学技術高校レポート ～I Love 百姓～
- 12 | お年玉クイズ当選者発表・おたより・クロスワード
- 14 | 抑え込もう!第6波!! ～日々の暮らしで『できること。』を再確認～
- 16 | 号外 TAC耳寄り情報
- 18 | JAあきた白神からのお知らせ
- 20 | Mama'sキッチン

大好評!! 広報しらかみハイライトムービー

毎月、広報しらかみ編集時にはたくさんの写真を撮影します。紙面の都合上、本誌では伝えきれなかった場面をご紹介します! 右記QRコードを読み取りご視聴ください。目指すは動く広報誌!!



今月の表紙

大好きなパパのお手伝い!



収穫最盛を迎えている大高勝信さんのアスパラガス。グングン伸びるアスパラガスの収穫作業に追われる毎日。そんな時は家族総出で収穫作業。もちろん、晴翔くん(6才)と乃蒼ちゃん(3才)もお手伝いを頑張ります。パパの『アスパラガス』みたいに日々成長する2人です!

集落座談会

協議事項① 県1JA基本構想等について

Q 県1JA構想から離脱したJAもあり不安を感じているが、理事会ではどのような協議をしているのか。(東北)

A 現在の組織再編協議会は、各JAの調査・研究となっており、その協議内容について理事会へ報告しながら協議を重ねて

Q すでに県1JA構想から離脱を表明しているJAもあるが、今後協議に参加する事はないのか。離脱した理由は何か。また、JA秋田やまもとは合併による組合員メリットが少なくないということに参加しないようだが、あきた白神はどこまで試算できているのか。(東北)

Q 県1JAに連合会を組み入れるとか、また共済組合、土地改良区など農業団体全体で合併をし、スリム化による費用削減して農家に還元する考えはないか。(東)

A 農業団体全体での合併については検討しておりませんが、連合会を組み合わせることもや生産コストの削減、物流コストの圧縮などを実施して農業者の所得増大を目指すことを念頭に協議を重ねております。

Q JA経営を考えると合併が必要であることは理解できる。しかし、農家として、現在不自由がなく必要としていないので、今のままで良い。合併することにより、大きなJAは小回りが利かなく、コンパクトで独自性のある単独JAを目指していく考えはないのか。(東)

A 次の段階の組織再編推進協議がスタートします。組織再編推進協議会で協議した内容については、タイムリーに組合員の皆様へ報告し、ご意見を頂戴しながら理事会でも引き続き協議してまいります。

Q JAグループ秋田組織再編Aを目指しており、離脱したJAも再度参加できるように窓口を残してあります。離脱した理由については、今後のJA経営の見通しが立つことや組合員からの反対の声が多いことなどが主な理由だと聞いております。また、組合員メリット等については、組織再編推進協議会へ移行後にさらに深掘りして協議していきます。現段階では、組合員メリットの多寡については試算等は行っておりません。

Q 現在、老朽化した施設の修繕など現JAでやるべきことが多くあるように感じる。合併よりも先に組合員第一を忘れず、

職員の育成、処遇、教育をしつかりしていただきたい。(東)

A 今後も組合員・地域住民へのサービスを徹底し、職員育成・教育等も引き続き、強化してまいります。

Q 全国では1JAとなつている県はあるのか。また県1JAとなつたJAのメリット、デメリットについて教えてほしい。(東)

A 県1JAを実現しているのは、奈良県、沖縄県、香川県、島根県、山口県の5県です。先進JAのメリット・デメリットについては今後、調査してまいります。

Q 県1JAのメリットが見えない。今回示された県1JAのメリット、デメリットだけは合併の賛否が難しいし、JAが多く集まっても、あまりメリットがないと思う。合併しなくてよいのではないのか？共にメリットを生み出せるJAが集まって合併したほうが良いのではないのか。また、連合会・県本部等とも合併しなければ意味がないのではないのか。(北)

A メリットなどについては、次の段階の組織再編推進協議会でさらに深掘りし協議してまいります。また、現在も県1JAへ連合会等県域組織も含めたオ

ル秋田体制になるよう協議しております。

Q 高齢化が進み、後継者不在の中でも先が見えない。将来的には合併しないとJAが維持できないと思うが、組合員が不便を感じないよう取り組んでほしい。役員が自信を持ってメリット提示できるように組合員を導いてほしい。(西)

A 組合員の高齢化、後継者不足など様々な課題に対応するため、県1JAに向けた協議を行っております。組合員へご不便をお掛けしないよう組織再編推進協議会で協議してまいります。

Q 他県でも1JA構想があるようだが、国の指導によるものか。早急に経営統合を急がなければいけない状況なのか。(北)

A 国からの指導ではありませんが、今後更に厳しさを増していくことが想定されており、県域組織を含めたオール秋田体制になることで集約される経営資源を、農業者の所得増大と農業生産の拡大のための施策に配分し、これまでに以上に積極的な取り組みが進められると考えられております。

Q 合併した際には、白神管内に地区本部を置くよう強く求めてもらいたい。(北)

Q 県1JAでは、職員の退職年齢の引き上げや、役職定年制について、今後の計画はどうなっているのか。(北)

A 県内各JAの就業規則等が違いため、組織再編推進協議会へ移行してから具体的に検討する予定です。

Q 5年〜10年先を見据え、地域に密着した人材育成に取り組んでほしい。賃金も含め、職員からも魅力あるJAにしてもらいたい。(西)

A 県1JAでは、「めざす職員像」を掲げ、組合員・利用者サービスの高度化に対応できる人材育成の仕組みの構築について検討しております。職員の賃金等については、組織再編推進協議会へ移行してから検討する予定です。

Q 地域ブランドと県1ブランドを平行して取り組んでいかなければならないと思うが、「白神ねぎ」など、地域特産ブランドは合併後どうなるのか。県全体で大きなブランドを立ち上げる予定なのか。品質、規格の統一による「秋田県産農産物ブランド」の創出について記載しているが、品質の統一など可能なのか。(東)

A 品質や規格の他にも、地域商標登録や地域独自の物があることで、これから協議する事に

A 組織再編推進協議会での協議となりませんが、当JA管内へ地区本部を設置するよう強く求めてまいります。

Q 合併の前に、合同での出荷体制や、海外からの共同仕入れ等まだまだ出来ることがあるのではないのか。(北)

時間がかかることが予想され、営農資材をすぐに購入出来なければ不便である。既存の施設を利用できる対策を検討してもらいたい。農家へのサービス低下に繋がりが、不便になるのではないのか。(西)

Q 県1JAではなく、県北・中央・県南の県内3JA構想での合併はどうか。合併もJAのための合併に感じ、農家組合員のためではないことが資料から伝わってきてしまう。(西)

県1JAへ県域組織も加入するよう協議をしております。仮に施設の廃止等を行う場合は機能を強化する前向きな投資策等セットで施設の再編や集約について対応し、組合員へのサービス低下とならないよう対策を講じてまいります。

A これまで全県5JA構想を立ち上げ各地区で協議してまいりましたが、現在のJAを取り巻く環境が大きく変化し、今後さらに厳しくなることが想定されており、近い将来、JAの財務・基盤が脆弱になるとこれまで提供してきたサービスが続けられなくなる可能性があるため、県1JAに向けて協議をしております。

合併した中で、負債や事故我々組合員に影響を及ぼすのではないのか。(西)

Q 合併して、連合会が必要ない。合併に伴い、どこかのJA・店舗がなくなったり、出荷所、資材売場、支店が遠くなりフットワークが悪くなると困る。配達も

個々の事案については、合併前に処理をしてからの合併となります。

Q 合併して、連合会が必要ない。合併に伴い、どこかのJA・店舗がなくなったり、出荷所、資材売場、支店が遠くなりフットワークが悪くなると困る。配達も

合併については総代会で決定するということだが、今後どのような方法で、どこまで組合員の意見を集約できるのか。組合員へアンケートを取っているJAもあるとのことだが、当JAも「組合員アンケート」を実施してはどうか。(西)

Q 合併して、連合会が必要ない。合併に伴い、どこかのJA・店舗がなくなったり、出荷所、資材売場、支店が遠くなりフットワークが悪くなると困る。配達も

組合員の意見等については、集落座談会等で集約します。また、「組合員アンケート」については、理事会で検討してまいります。

なりません。

Q 青果物は合併することで、ロットが大きくなりメリットとなるが、品質が低下して単価が下がるのではないのか。(北)

A 県一合併することでロットの少ない品目に関してはスケールメリットが出てくると思われ、品質面については、地域商標登録や地域独自の物があるので、これから協議する事になります。

Q 合併時に青果販売手数料の計算方法を見直してほしい。農家手取りを増やしてほしい。(北)

A 合併時の青果販売手数料については、これからの協議になります。農家手取りの最大化を目指し、購買、営農、販売部門各署で協議してまいります。

Q 次年度以降の米価の見通しはどうなっているのか。また、合併することで米価が上がらなければメリットを感じない。(東)

A コロナの影響と元年産から続く過剰在庫により、見通しが付かない状況にあります。経済の環境や作柄にもよりますが情勢を注視してまいります。合併後の米の販売方法等については、これからの協議になります。

Q 合併するにあたり、例えば各メーカーと提携して肥料等を仕入れれば手数料など抑えられ、組合員にメリット還元出来ると思うが、合併して組合員メリットの創出になることをもつと具体的に説明して欲しい。合併すれば本当に資材は安くなるのか？(東)

予約購買を基本とし、取引量の背景とした仕入れ交渉力の強化や物流環境の合理化による配送コストの低減を図り、供給価格へ反映することとしています。

Q 農機センターの地区担当職員が人員不足で回り切れない状況の中で、合併により、担当職員の負担が増し、組合員サービスの低下に繋がるのではないのか？(西)

現在は地区担当職員と担当期の出張等に対応してまいります。入りの若し職員はまだ一人での修理作業が出来ませんので、今後職員のリベルアップで対応したいと思っております。合併後も今の体制を維持出来るように努めたいと思っております。

Q JA合併では、支店の統廃合など行い、職員数の削減を計画しているのか。(東)

A 職員全員を新JAへ引き継ぐこととなっておりますので、職員数の削減については計画していません。

協議事項② その他JJAから

Q 集落単位での座談会は、出席者が固定化してきている。様々な意見を聞くため、また経営者から直接返答を頂きたいので、旧支店単位、もしくは1支店単位での座談会を開催してはどうか。

A 開催方法等については今後、理事会で協議してまいります。

Q 組合員の脱退、離農により地域の農家や正組合員が減少傾向にあるが、年間どれくらい減少しているのか。JAはそれに対する対策はとらないのか。

A 組合員の高齢化、継承者の減少に伴い、毎年正組合員が100人超脱退している状況です。当組合といたしましても、若手農家の育成・准組合員の加入促進などに注力している状況です。毎月理事会で協議しておりますが、今後も理事会等で協議しながら多方面からの対策を講じてまいります。

Q 総代会の資料等を簡素化すること、コスト削減できるのではないか。JA執行部がしっかり組合並びに農家組合員を導いてもらいたい。

A 総代会の資料等を簡素化すること、コスト削減できるのではないか。JA執行部がしっかり組合並びに農家組合員を導いてもらいたい。

Q 営農指導とともに、経営指導にも注力してもらいたい。

A JAでは、JA取引データを活用した農業経営管理支援システムによる経営支援を行っております。この経営支援による経営指導を今後組合員へ行ってまいります。

Q サキホコレの作柄はどうであったか。また、管内ではいつ頃から作付け可能となるか。

A サキホコレは、推奨地区外正試験を当組合管内5箇所で行っています。今年度は品質、収量も良い結果でした。この試験を3カ年行うことになっており、管内でサキホコレの栽培適正が確認できれば、県から推奨地区に編入されることとなります。作付可能については、早くても令和6年以降になります。

Q 米価が不安定で次年度の営農計画がたてられない状況

A 総代会資料には、法令等での内容を記載しております。今後引き続き、コスト削減に努めてまいります。

Q 現在の当組合において、不足している施設または建設・増設を計画している施設はあるか。

A 現在は増設等の計画はありませんが、野菜等集出荷関連施設、配送拠点等について、今後、整備・見直し等について検討します。

Q 賦課金の徴収方法(賦課対象となる農地)について、もっと分かり易くしてもらいたい。具体的には耕作していない農地も対象となるのか。

A 賦課金の基準は、組合員割と耕作面積割です。したがって耕作していない農地は対象外です。

Q 新聞報道において水田フル活用による交付金の見直しがあるのか。また、これまで耕畜連携による飼料作物の作付を推奨していたが、今後助成金が減額となる見込みであれば営農を継続できない状況にある。JAとしての行政への働きかけの状況と、我々組合員にいつ頃まで詳細を提示できるか。

A 能代市と藤里町へ米価下落に伴う稲作経営の安定に向けた農家支援について要請書を提出しております。

Q 離農等で組合員の脱退が多いが、農業を継続出来るよう後継者育成や法人の利用に対応した取り組みなどに力を入れてもらいたい。

A 新規就農者、新規法人等に対する支援を関係機関、関係部署と連携しながら取り組んでまいります。また、農業継承講習会を開催し、農業継承にも取り組んでまいります。

Q JA米は、土壌改良等の経費が掛かっている分、価格差を付けてほしい。

A JA米と一般米で価格差はありますが、経費を掛けたからではなく、どんな米が出来たかになると思います。価格差が付いている区分としては、eコライス、有機米、特栽培米が有ります。

るか。

A JAグループとして行政へ要請しております。農林水産省より令和4年度の水田交付金の多量性作物(牧草)については、当年度で播種から収穫まで行うものが3.5万円/10a、播種を行わず収穫を行うものについては、1.0万円/10aへ交付単価が見直されました。また、それ以外の交付金の変更点についても農林水産省、秋田県より示されました。この情報をもとに、地域再生協で産地交付金について検討を行った後、組合員へ周知して参ります。

Q 米価の下落が来年度も想定されるが、JAは飼料米(一部)を推奨するのか、飼料米を作付けするとするとJAで品種や数量など、取り決めがあるのか。JAから飼料米について、詳しい資料を提示して欲しい。

A 令和4年度水田活用の直接支払交付金の変更点が農林水産省と秋田県より示されました。飼料用米には、市町村の基準反収で支払う「一括管理方式」と決められたほかからの全収量で支払う「区分管理方式」がありますので、自分の経営に合う方法で作付けすることになります。販売先は全農で、まだまだ出荷できます。なお、品種については決まりがありませんが、収量に応じて交付金変動しますので、作付する場合は多収

Q サキホコレを栽培出来ない地域が県内にたくさんあるのに、サキホコレのPRが目立ち、あきたこまちのPRが疎かになっているのではないか。また、サキホコレの評判はどうか。

A サキホコレのPRが疎かになつていないか。また、サキホコレの評判はどうか。また、サキホコレのPRが疎かになつていないか。また、サキホコレの評判はどうか。

Q 系外業者は米買い取り代金が安かった。JAの追加払いの状況と今後の見込みは。

A 12月29日(水)に追加払いのお支払いが出来ました。今後追加払いの交渉により、更に追加払いができるよう取り組んでまいります。

Q 前年度産米が未だ余っていると聞くが、昨年は無理しすぎたのではないか。また、米穀共同計算による精算は長期的に取り扱わないで、各年度内に販売・精算してもらいたい。

A 2年産米は、元年産米からの在庫が大きく影響しましたが、3年度末までには販売完了

品種が望まれます。

Q 備蓄米の状況と、来年度の転作配分面積の最新情報は入手してあるかお知らせ頂きたい。

A 備蓄米については、生産者とのヒモ付けがなくなったので、JA全体で販売の一部として取り組んでおります。「生産の目安」については、地域再生協を通じてお知らせ致します。

Q 耕作放棄地が増加している状況下で、地域農業を守るため担い手の育成や地域単位独自のブランド米作りなど、今後の集落の農業を考えていきたいが、JAは指導、アドバイスなど支援してくれる体制にあるか。

A JAでは、地域、集落の将来を考えた、アンケート結果をもとに地域営農ビジョンを作成しております。今後、地域農業の発展に寄与するように努めてまいりますので、要望があればいつでもご相談下さい。

Q 品質の保持等は部会が主体では難しい。JA主体でないと。

A 青果物の品質保持については、JAと各部会が主体となり取り組んでいます。そのため、

Q 米価は上下するが、小売価格はあまり変動がない。もっと販売面について取引先や行政も含め交渉してもらいたい。

A 玄米販売と白米販売とでは取引先が全く違うものになります。これまで同様、取引先に粘り強く交渉してまいります。

Q 育苗ハウス増設の検討はしているのか。

A 能代・藤里両育苗センターで連携を取りながら、育苗枚数を増加できるように増設も含め検討してまいります。

Q 今年度もカントリーエレベーターの精算が遅れた原因は何か。

A 日々の受入れ数量が年々増加した事に加え、搬入された生籾の水分が高かった事により乾燥作業に時間がかかったことが大きな原因となっております。今後は、いつまでに精算を行うかを示してまいります。

Q カントリーエレベーター受付時間を17時までにしてほしい。

A カントリーエレベーター受付時間を17時までにしてほしい。

A カントリーエレベーターへの日々の受入れ量が増加しており、このままでは品質事故を招きかねない恐れがあり受付時間の延長につきましては難しい状況です。

Q カントリーエレベーターのサイロ増設、二ツ井・藤里地区への新設を含め、検討状況を教えてもらいたい。いつまで大潟村カントリーエレベーター公社を利用するのか。①

A 県1JAの関係や建設費、作業員確保等の問題から増設・新設を含め、今後の検討課題と考えております。今後も大潟村カントリーエレベーター公社の利用を行ってまいります。

Q SDGsについて、2050年度までに肥料、農薬を50%の削減をにかけているが、JAは、現在どのような取り組みを実施しているのか。②

A 当JAでは、藤里地区において秋田ecoライスの取組みとして農薬成分慣行20成分から10成分以下による栽培を行っている。また二ツ井地区では、減農薬減化学肥料米による栽培として農薬を10成分以下による栽培を実施しています。肥料の窒素成分は4kg以内の化成肥料と有機肥料を組み合わせ栽培に取り組んでいます。ねぎの生産では6名がJGA

Pを取得し、環境に配慮した栽培に取り組んでいます。

Q 生産コストを下げるために資材費を下げてもらいたい。予約注文すれば当用と比べてどの程度安く購入出来るのか。③

A 予約注文の取りまとめにより、安価での大量仕入と供給が可能となることから、資材費を削減する事ができます。肥料・農薬は当用価格より12%引き、保温資材は当用価格より7%引きで購入する事ができます。

Q 原油の高騰で営農資材の価格はどれくらい値上がりするの。また、JAとしてどのような対応を検討しているか。④

A 原油価格高騰の状況により値上り幅は違うと思いますが、原材料輸入にかかる輸送コスト（運賃等）に影響が出ます。現段階ではどの程度値上りするかわかりませんが、対応といたしましては、各業者から見積書を取得し最も価格の低いところからの資材を仕入れております。また、銘柄集約や土壌診断に基づく（適正施肥）施肥コスト抑制にも取り組んでおります。

Q 種もみは、平日の引取りで大変だ。配達や日曜日の引き渡しはできないか。⑤

A 1.9mmの網目を基本としJA米の要件にもなっております。農産物検査法では整粒歩合で判断しますので、白神米を高品質で販売するためにもご協力お願いいたします。

Q 大豆の刈り取りは、天気に大きく左右されるので、カントリーの荷受け等を土日も行える体制にしてほしい。⑥

A 現在、土曜日・祝日については荷受けを行っております。働き方改革の関係もあり日曜日については、基本的に休日とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

Q 今後、カントリーエレベーターの利用を考えているが、サイロが足りないの。二ツ井地区は大潟村へ搬送され、支払いが遅れると聞いたがどうのことか。⑦

A 大潟村カントリーエレベーター公社への搬送は、あきた白神管内全域からとなっております。日々の受入れ数量の増加と、生糞の水分が高いことにより乾燥作業に時間を要したが、精算の遅れに繋がりがご迷惑をおかけすることとなりました。

Q カントリーエレベーターへの出荷でスタンドバックが無く稲刈りが出来ず、使用人を帰したことがあったので、こういうことが無いようにお願いしたい。

A やむを得ず平日の引き取りが困難な場合は、現在も配達をいたしております。また、日曜日や祭日等の日程も1日設けておりますのでご活用ください。

Q 肥料農薬の勉強会をもう少し早期に開催してもらいたい。⑧

A 10月中の開催は農繁期でもある為、困難な状況です。稲作についての勉強会であり、11月中旬頃の開催が適期だと考えております。

Q 農機センターの迅速な対応サービス向上のために各農機メーカーと連携して修理等に出向く対応は出来ないか。⑨

A 乾燥機・防除作業機はシステムメーカーと連携し迅速に対応しております。今後もシステムメーカーと協力して対応に努めたいと思います。

Q 本店（富町）移転により、ATM活用が不便を感じる。本店ATM（富町）を継続させることは出来ないか。⑩

A ご不便おかけしますが、コンビニATM・他行ATM（あったかネット）のご利用をお願いいたします。平日は時間帯で手数料無料で対応しております。

⑪ 藤

A 稲刈りが集中し例年を大幅に上回る荷受となった日数が数日あり、作業が間に合わずスタンドバックの不足を招いてしまいました。ご迷惑をおかけいたしました。作業の内容を検討し効率化を図ってまいります。

Q ラジヘリの防除実施日を事前に教えてほしい。⑫

A 広報等で実施日などを周知（その後の管理の為）⑬
⑭ 詳細につきましては経済課・各営農センター等へお問い合わせいただければと思います。

Q 今年度は米価下落の影響から、救済措置として肥料・農薬等の購買精算が12月まで延長できた。JAの精算時期は他社より早い。毎年の資金繰りに苦労する。（交付金等の振込みも12月）
⑮ 今後購買精算も12月末にしてほしい。そうすればJAでの購入が増加すると思う。⑯

A 今後検討して参りたいと思います。

Q 農機センター職員を育成し、大型機械やスマート農業への対応にも力を入れてほしい。⑰

A コロナウイルスの影響で各講習会等が出来ない状況となっておりますが、状況が回復次第

Q 能代野菜集出荷所にもATMを設置してもらいたい。

A 金融店舗外のATM設置は検討しておりません。コンビニATM・他行ATM（あったかネット）のご利用をお願いいたします。平日は時間帯で手数料無料で対応しております。

Q 融資を受ける際の提出書類が多すぎる。組合員に対しもっと簡便に融資できるように体制をお願いしたい。⑱

A 関係機関と共に簡便化を前向きに検討しております。

支店運営協議会

Q 本店と支店が統合して、のしろ東支店がなくなれば、支店運営協議会等は、今後どのような扱いになるのか。⑲

A 本店が事務局となり、現在の支店運営協議会は継続します。

Q 営農指導員の人員不足を感じる。新人では対応できないこともあるため、臨時職員などから正職員への採用をもっと薦めてはどうか。⑳

A 臨時職員の正職員への登用（中途採用）も含め、今後検討してまいります。

に各種講習会等でのスキルアップに努めたいと思います。

Q 二ツ井・藤里農機センターの工場や格納庫を大型機械が対応できるように改修したらよいのでは。センター前の倉庫も出入り口の位置を変えれば、出し入れしやすくなると思う。㉑

A 今後施設の改修等により利便性の向上に努めたいと思います。



合併に関する事項のほか、事業運営に関するご意見やご要望がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。